

第3回 臨床研修制度の在り方等に関する検討会(平成20年11月18日)

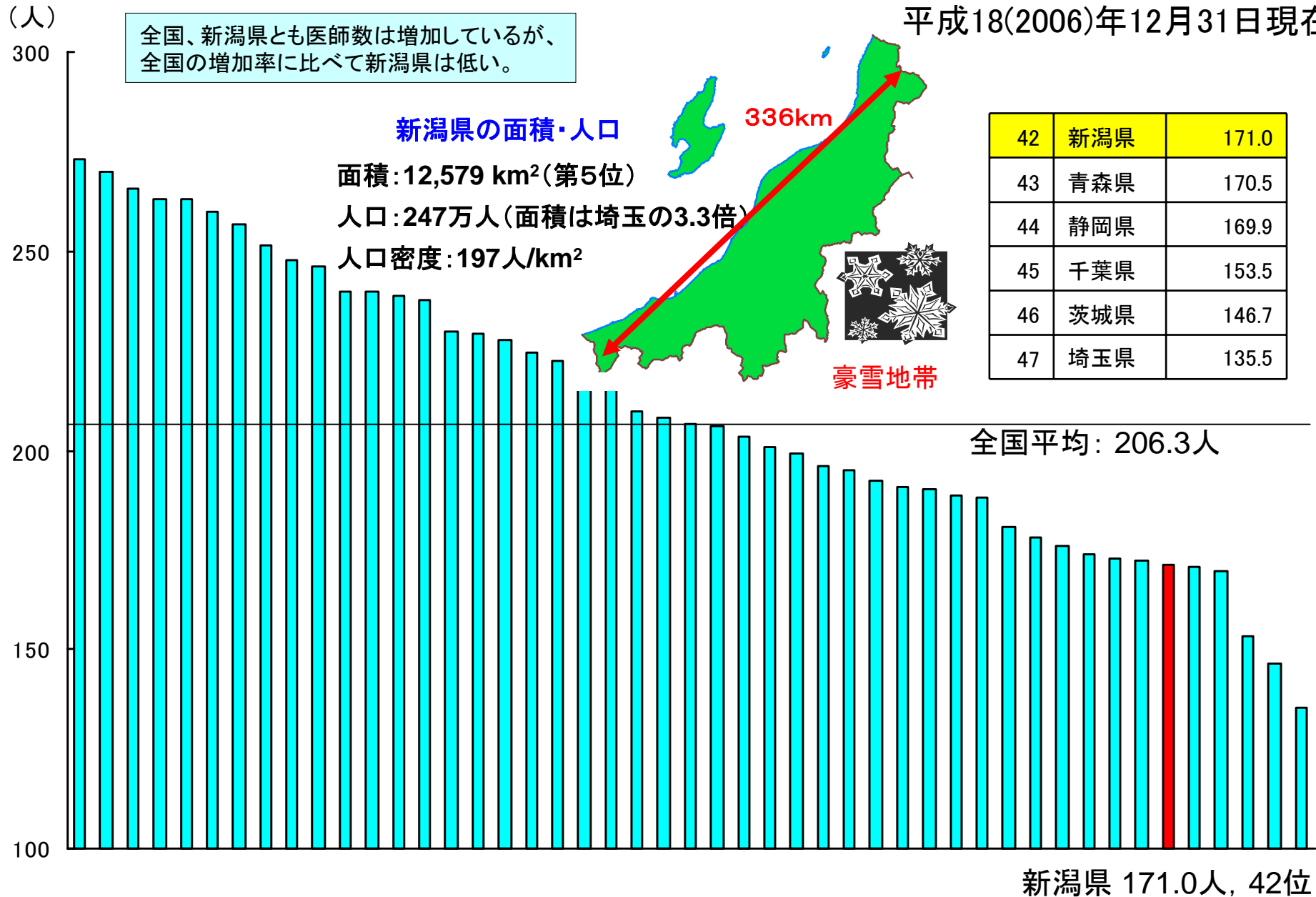
新潟県における医師養成の現状と課題

—地域医療への新潟大学の取り組みから臨床研修制度を考える—

新潟大学長 下條 文武

都道府県(従業地)別にみた医療施設に従事する人口10万対医師数

平成18(2006)年12月31日現在



新潟大学医学部の医学教育改革

医学教育モデル・コア・カリキュラム
チュートリアル (tutorial) 教育

新潟大学医学部の新カリキュラム (平成12年度から)

早期医学体験実習 (Early Medical Exposure; EME); 1年次

統合臨床医学コース (臨床医学入門); 3年次前期

臓器別統合コース; 3年次後期～4年次前期

臨床実習入門コース; 4年次後期

医療面接, 身体診察法, など

シミュレーターによる実習の導入

臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム

OSCE (Objective Structured Clinical Examination)

CBT (computer based testing)

臨床実習 I (学内全診療科); 5年次

臨床実習 II (クリニカルクラークシップ; 学外病院); 6年次

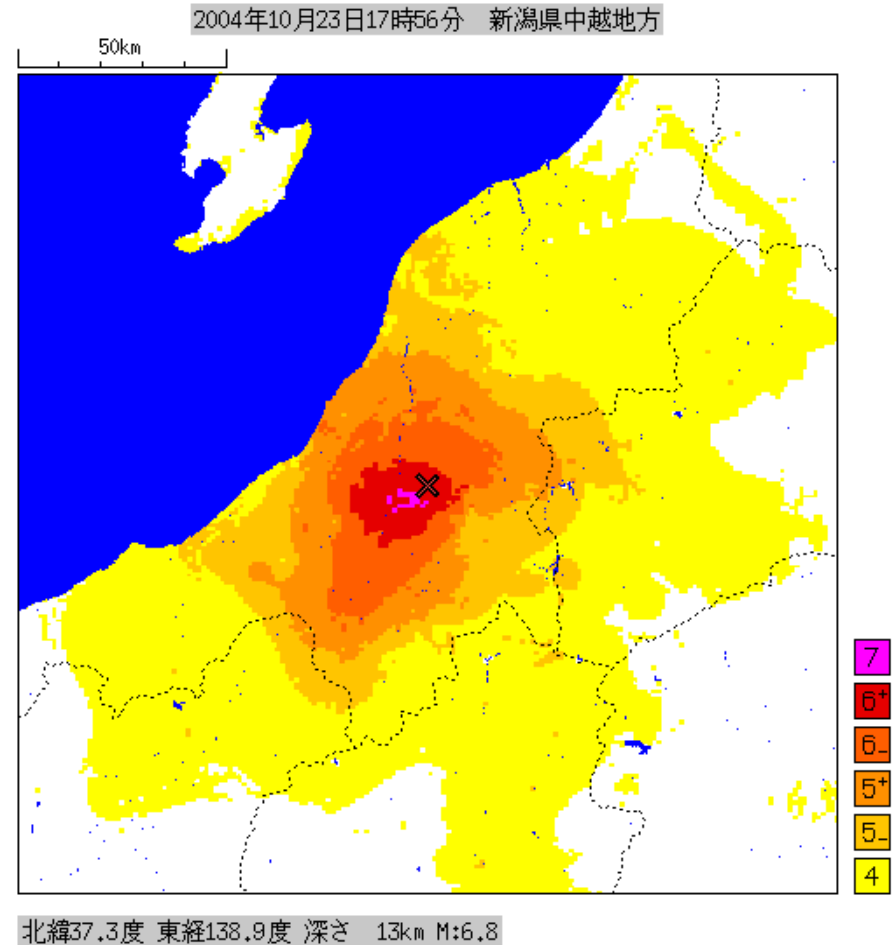
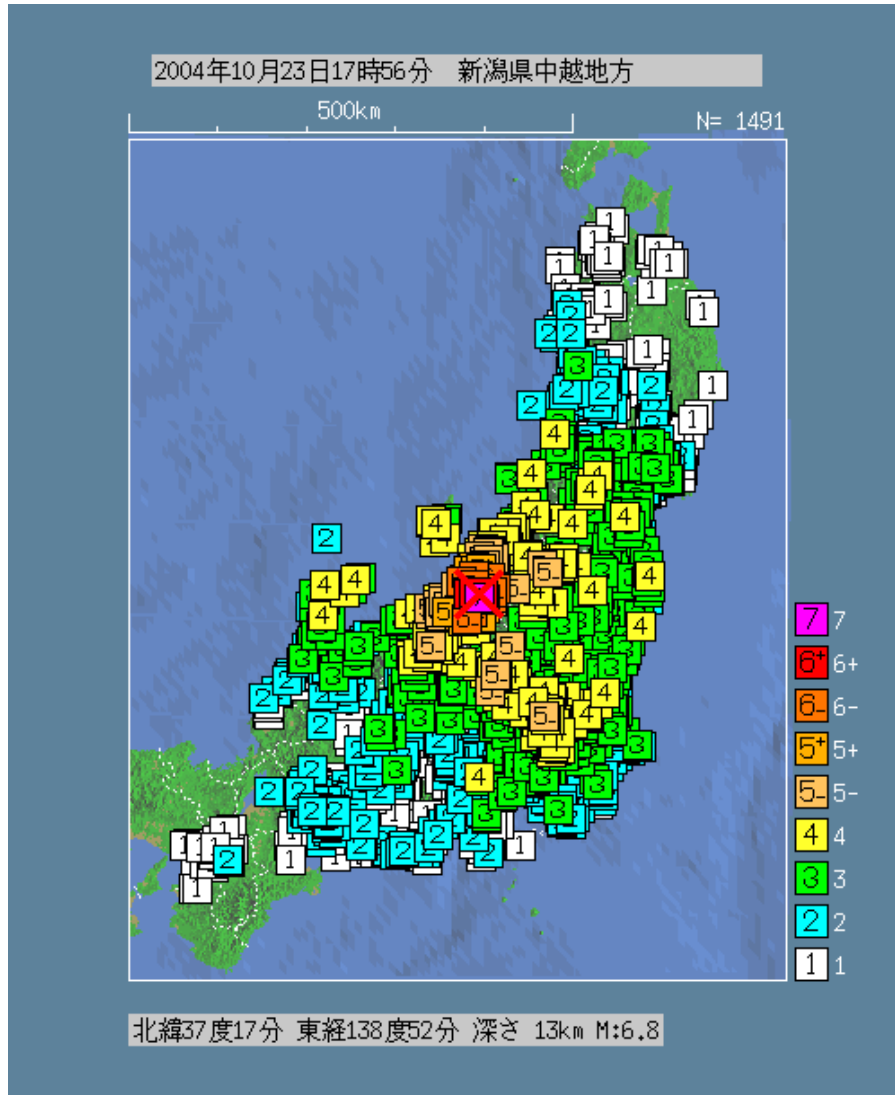
新潟大学医学部における地域医療学プログラム

- 1年次: EME (早期臨床体験) に地域医療施設の追加
- 2年次: 医学概論Ⅱで, 課題に「医師不足が起こる原因と対策」, 「地域医療は今後どうあるべきか?」を追加し討論
- 3年次: 統合臨床医学コース (臨床医学入門) で, 「症候の基礎知識」, 「チーム医療」について学習
- 4年次: コース「臨床実習入門」のユニット「地域医療」で, 地域医療の講義と地域支援テレビシステム実習を導入
- 5年次: コース「臨床医学講義」のユニット「地域医療」で, 地域医療機関の医師が非常勤講師として講義
- 6年次: コース「臨床医学講義 (集中)」のユニット「保険制度, 地域医療, 疫学」で地域医療病院医師が講義

臨床実習Ⅱの実習病院に, クリニカルクラークシップによる地域医療病院を

平成16年10月23日新潟県中越大震災

平成19年7月16日は中越沖地震



災害拠点病院にも損壊被害

新潟大学病院による災害医療支援

医師，看護師，薬剤師，臨床検査技師，歯科技工士，歯科衛生士，事務職員からなる医療班チームを編成し医療活動を展開した



- 自己完結型のチーム医療が有効な医療支援となる
- 地域医療に対してもチーム医療が最も重要である

これからの地域医療

使命感に燃えた個人による

いわゆる「赤ひげ先生」に頼るのではなく、



チームによる地域医療支援

新潟大学による「赤ひげチーム」

地域医療に意欲ある医師たち

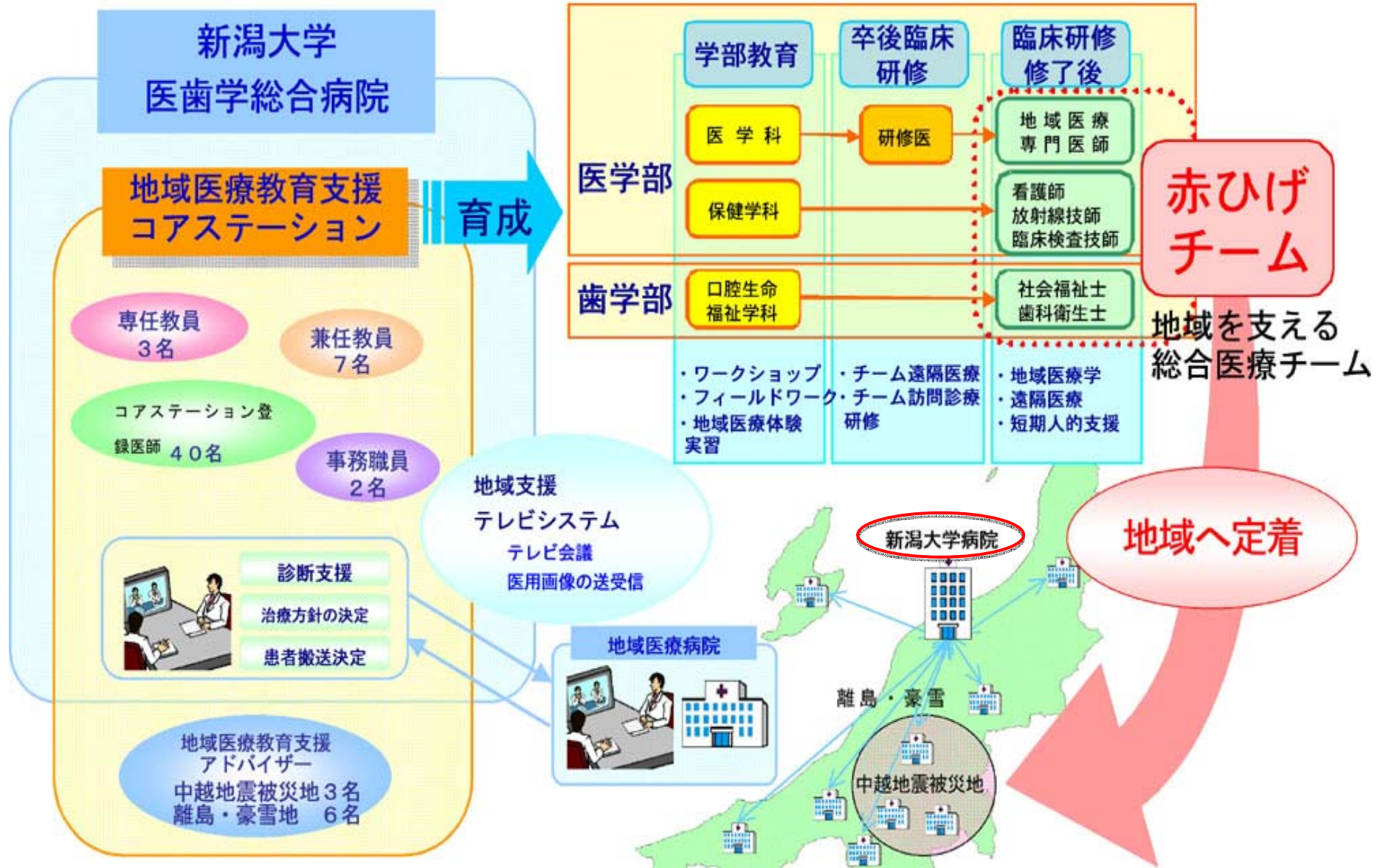
看護師，薬剤師，

理学療法士，社会福祉士など

文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した
医療人教育支援プログラム(医療人GP)」による支援

中越地震に学ぶ赤ひげチーム医療人の育成

本プログラムの対象は学生、研修医、地域医療実践医師らである



文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム(医療人GP)」による支援

フィールドワーク・地域医療体験実習

- 多職種学生によるチームで、大学の中では学べない実際の地域医療の現場に触れる
- 過疎化，高齢化，少子化，地域医療の問題を，実際の現場を見ることでより理解する
- 地域医療におけるプライマリケア・チーム医療の重要性を知る



学部学科を超えた学生による ワークショップとフィールドワーク(1)

平成17年度第1回(平成18年3月13日～15日)

山古志陽光台仮設診療所
山古志陽光台仮設住宅
県立松代病院
厚生連魚沼病院
南魚沼市立ゆきぐに大和病院
湯沢町保健医療センター



県立松代病院

平成18年度第1回(平成18年8月1日～3日)

十日町市役所	十日町市松之山診療所
上越市清里区総合事務所	上越市清里診療所
魚沼市役所	魚沼市堀之内病院
阿賀町役場	阿賀町鹿瀬診療所

学部学科を超えた学生による ワークショップとフィールドワーク(2)

平成18年度第2回(平成18年9月19日～21日)

長岡市山古志支所
十日町市松之山診療所
魚沼市立堀之内病院

長岡市山古志診療所
上越市清里診療所
柏崎市北条診療所

第3回(平成19年3月12日～14日)

長岡市山古志支所
長岡市山古志診療所

県立松代病院
厚生連魚沼病院
ゆきぐに大和病院
湯沢町保健医療センター



十日町市立松之山診療所

学部学科を超えた学生による ワークショップとフィールドワーク(3)

平成19年度第1回(平成19年8月1日～3日)

十日町市 阿賀町 魚沼市 十日町市国保松之山診療所
県立松代病院 県立津川病院 魚沼市立堀之内病院

平成19年度第2回(平成19年9月25日～27日)

柏崎市国保北条診療所
上越市国保清里診療所
上越市国保吉川診療所
上越市国保牧診療所

第1回佐渡訪問医療実習
(平成19年9月11日, 12日)
佐渡市立両津病院
厚生連佐渡総合病院
佐渡市



厚生連佐渡総合病院

学部学科を超えた学生による ワークショップとフィールドワーク(4)

平成19年度第3回(平成20年3月10日～12日)

柏崎保健所

中越沖地震で「災害医療本部」
を設置, 医療マネージメントを
行った



県立松代病院
南魚沼市ゆきぐに大和病院
十日町市国保松之山診療所
上越市国保清里診療所
湯沢町保健医療センター

赤ひげチーム
学部教育プログラム

学生によるワークショップとフィールドワーク 参加者募集

多職種学生による地域医療チームをテーマとした
「平成19年度第3回ワークショップとフィールドワーク・地域医療体験実習」
を行います！休業期間中ですが、多数の皆さんの参加をお待ちしています☆

- ◆対象 新潟大学医学部医学科学生
新潟大学医学部保健学科学生
新潟大学歯学部口腔生命福祉学科学生
- ◆日程 第3回 平成20年3月10日(月)～12日(水)
- ◆内容 1日目: 集合時間 8:45 解散時間 17:00頃
多職種学生によるワークショップ(グループ学習、討議及び発表等)
2日目: 集合時間 8:30 解散時間 18:30頃
フィールドワーク・地域医療体験実習
3日目: 集合時間 8:45 解散時間 12:00頃
多職種学生によるワークショップ(グループ学習、討議及び発表等)

予定訪問先
柏崎…その他

<申し込み先>
下記の電話、FAX、E-mailにて受け付けますので、氏名、連絡先をご連絡下さい♪
新潟大学医歯学総合病院 東病棟4階
地域医療教育支援コアステーション
TEL:025-227-0885 FAX:025-227-0886
E-mail: akahige@adm.niigata-u.ac.jp
または各学科担当教員、学務係まで

<http://www.niigata-u.ac.jp/cor/index.html>

学部学科を超えた学生による ワークショップとフィールドワーク(5)



現時点での参加学生



医学部医学科	52名
医学部保健学科	34名
歯学部口腔生命福祉学科	25名
法学部	2名
その他	1名



計

114名



地域支援テレビシステムの活用効果



平成18年2月23日
県立津川病院



平成18年7月12日
厚生連魚沼病院



地域支援テレビシステムの活用(1)



大学病院検討会室
検討会

- ・専門的な症例について専門医に相談できる
- ・必要に応じて転院などの処置をとることもある



佐渡市立両津病院



県立松代病院

地域支援テレビシステムの活用(2)



県立松代病院

大学病院検討会室
(研修医を含め)

「ツツガムシ病」や「レプトスピラ感染症」「マムシ咬症」などの症例や、診断や治療困難症例などについて、地域医療病院と大学病院との検討

地域支援テレビシステムの活用(3)



県立妙高病院

県立柿崎病院

講演会の様子を相互に配信し、より多くのスタッフに参加してもらった



地域支援テレビシステムの活用(4)



県立松代病院

松代・津川間で地元首長・
有識者を交えた情報交換会



県立津川病院



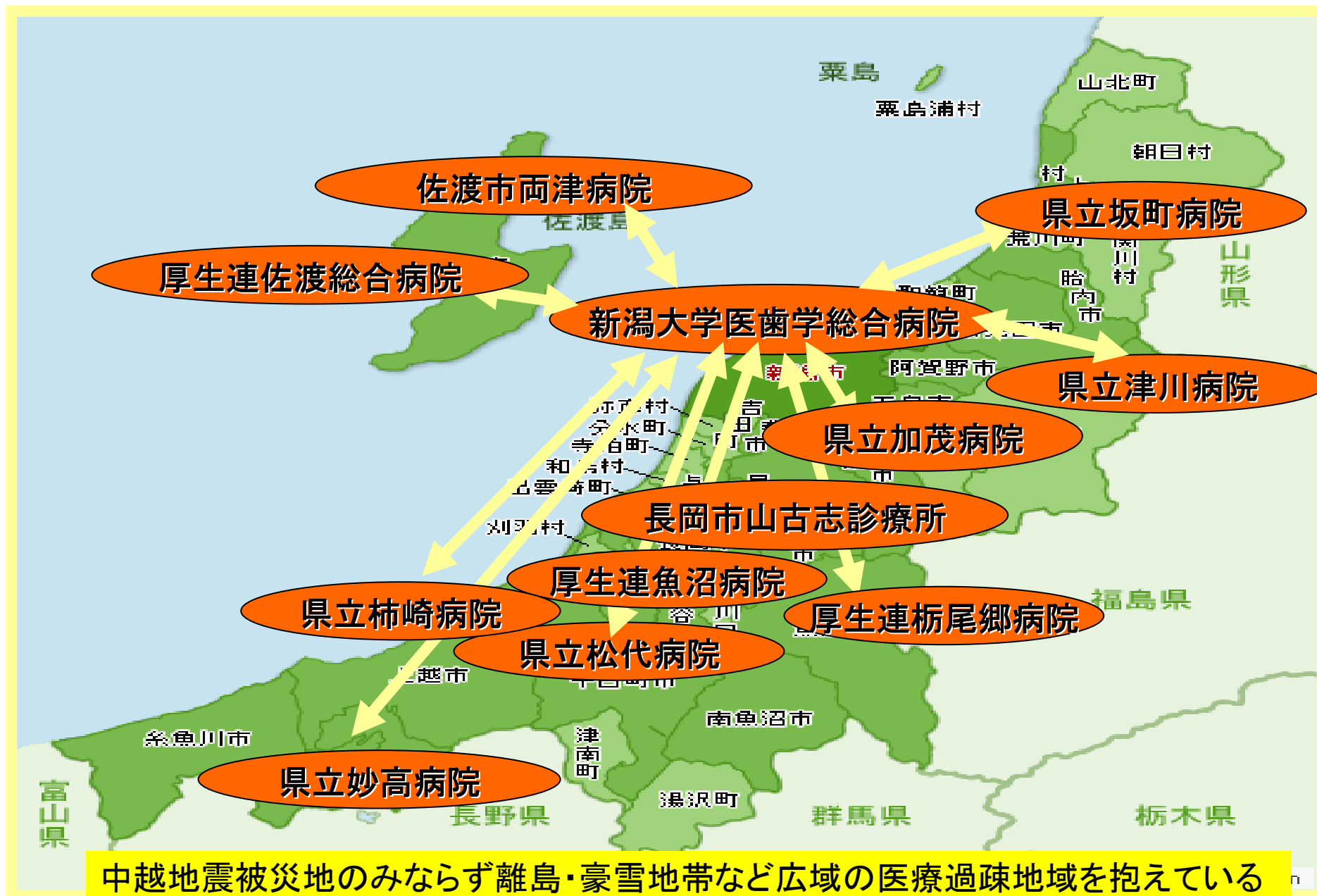
地域支援テレビシステムの活用(5)

医学部医学科4年次学生 臨床実習入門「地域医療」

県立松代病院 県立津川病院
県立柿崎病院 厚生連栃尾郷病院
県立妙高病院 佐渡市立両津病院
厚生連佐渡総合病院



地域支援テレビシステムを設置している医療機関



地域支援テレビシステムの活用(6)

大学専門医への 症例相談	212
卒前・卒後医学教育への活用	64
大学病院からの、あるいは 地域医療機関同士 の講演会など	12
その他	19
	<hr/>
	307

地域支援テレビシステムの効果

- 地域支援テレビシステムは地域と大学間、あるいは地域間の連携を活性化している：**大学と地域病院全体が一つのチームである意識醸成のツール**
- 地域を支える総合医療チームの力を向上させ、大学教育の質の向上を図り、地域医療を担う医師の定着に寄与する。医療支援への動機付け。



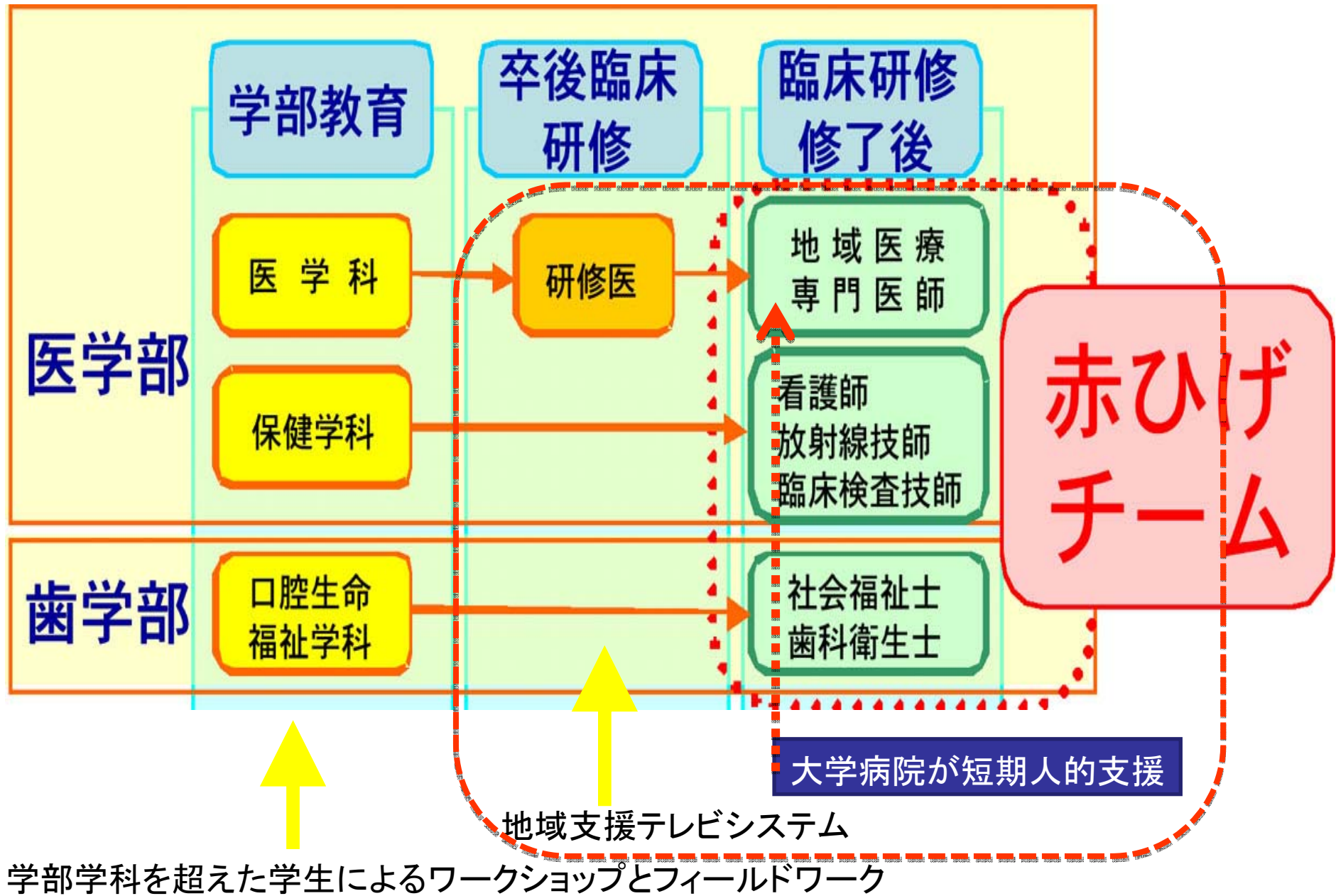
新潟大学医歯学総合病院

「赤ひげチーム
医療人」の定着

情報の共有・連携
の活性化



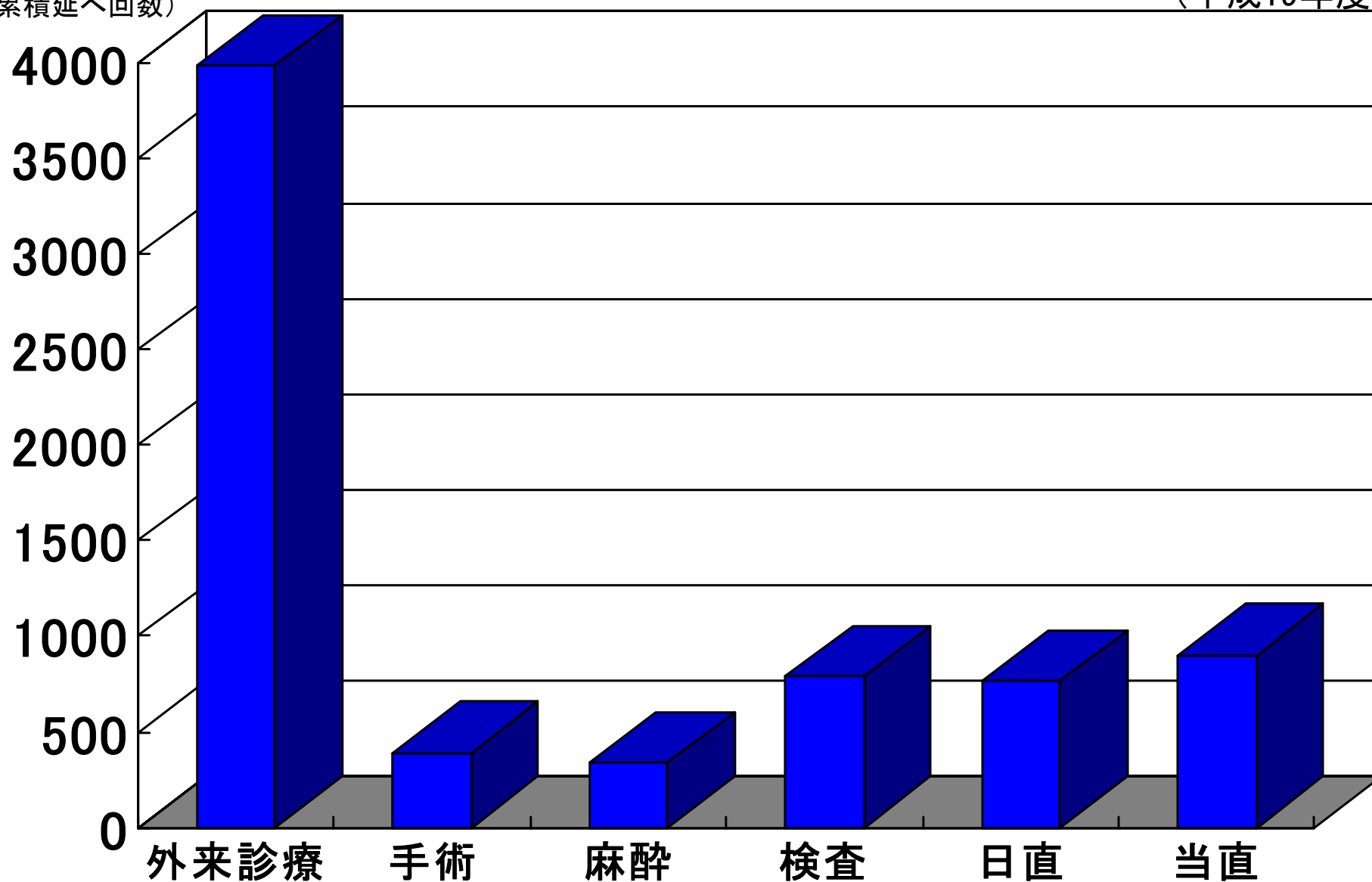
赤ひげチームプログラム



新潟大学からの県内11地域医療機関への支援状況

(平成19年度)

(累積延べ回数)



～新潟県の研修医確保に向けて～

新潟大学が中心となり良医育成新潟県コンソーシアムを結成

(目的)

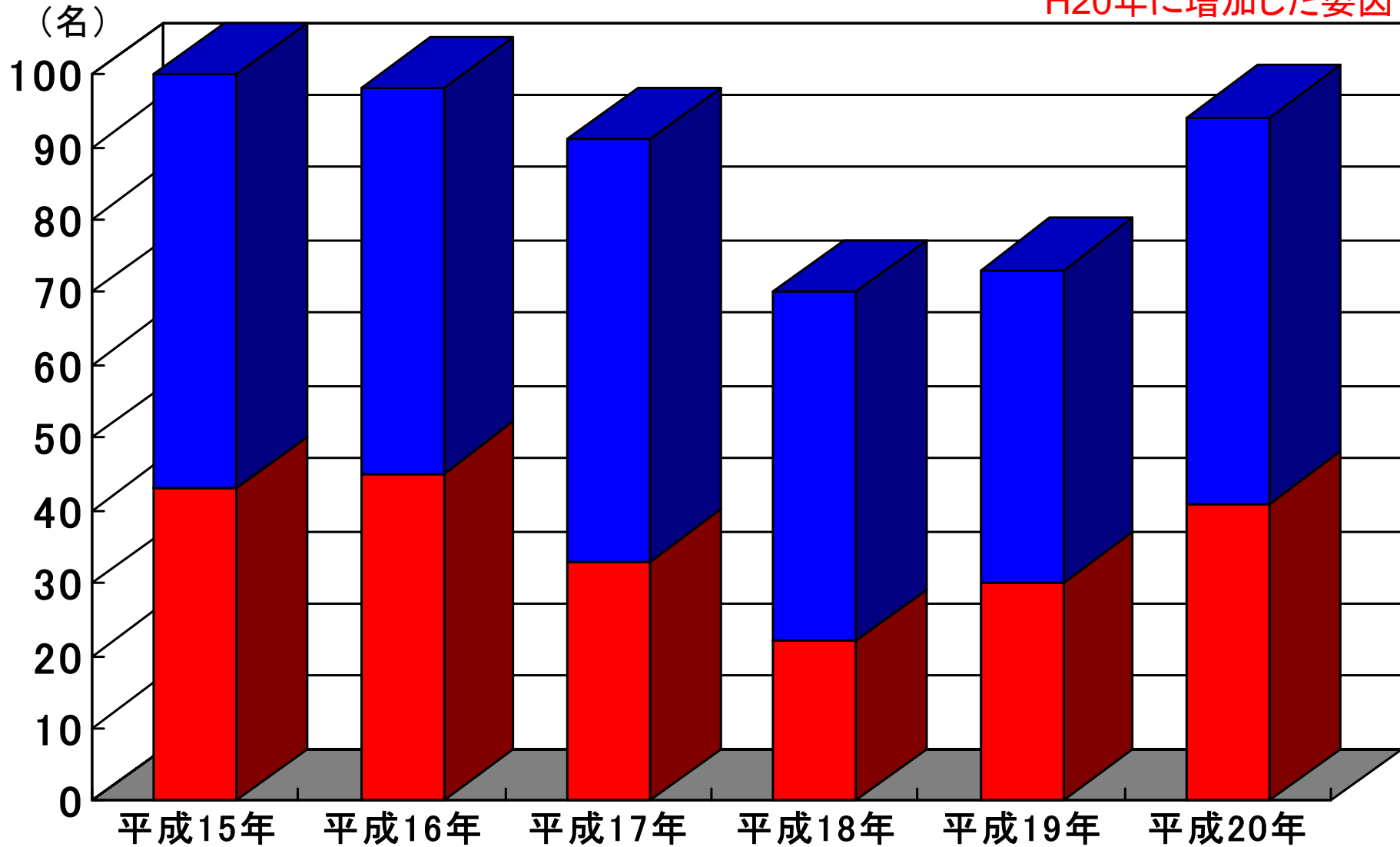
コンソーシアムは、新潟県内の臨床研修病院(新潟大学医歯学総合病院を含む)における医師及び臨床研修医の確保及び定着の促進を図り、本県の地域医療を担う良医育成に資することを目的とする。

(コンソーシアムの事業)

- (1) 臨床研修制度に係る情報交換、臨床研修対策等に関すること
- (2) 本県の臨床研修指定病院のPRに関すること
- (3) 臨床研修指定病院の指導体制の充実にに関すること
- (4) その他必要な事項に関すること

新潟県内研修医マッチングの動向 (病院別マッチ者数)

H20年に増加した要因



■ 新潟大学病院 ■ 新潟県内臨床研修病院

研修希望者の選択性をより多様にするために、
平成20年度より3つの研修プログラムを用意した

研修プログラムA(内科重点コース)：

将来、内科系を希望し、内科研修を充実させたい研修医
向けプログラム

研修プログラムB(外科系重点コース)：

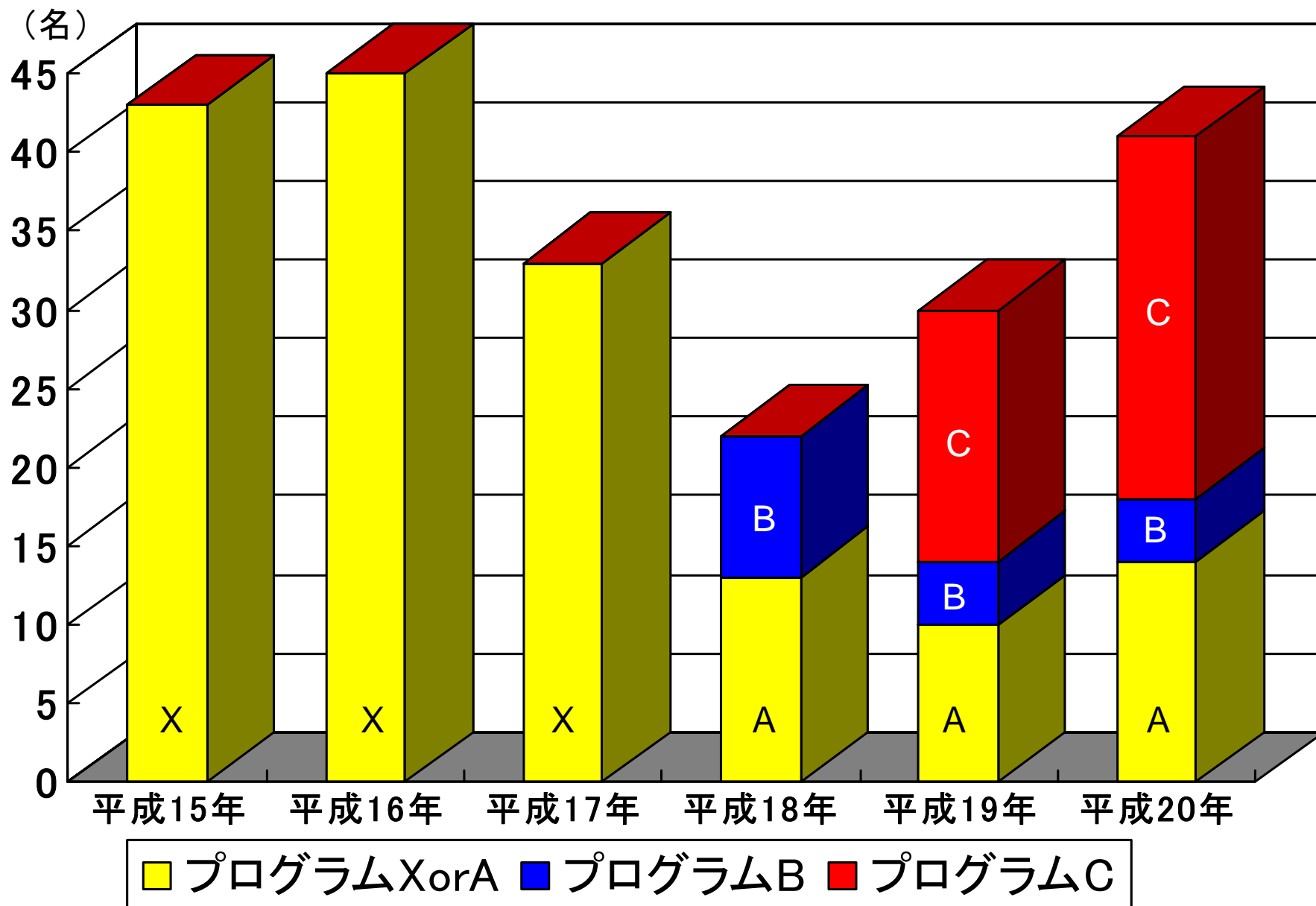
将来、外科系を希望し、外科系研修を充実させたい研修医
向けプログラム

研修プログラムC(専門重点コース)：

卒後臨床研修修了後の専門研修希望診療科を決めている
研修医が、臨床研修当初より後期専門研修を念頭に置いて
研修を行えるプログラム

研修プログラムCでは、**専門研修希望診療科での3ヶ月研
修から**臨床研修を開始し、希望診療科で研修を修了する

新潟大学病院におけるプログラムCマッチ者の増による (マッチ者数)

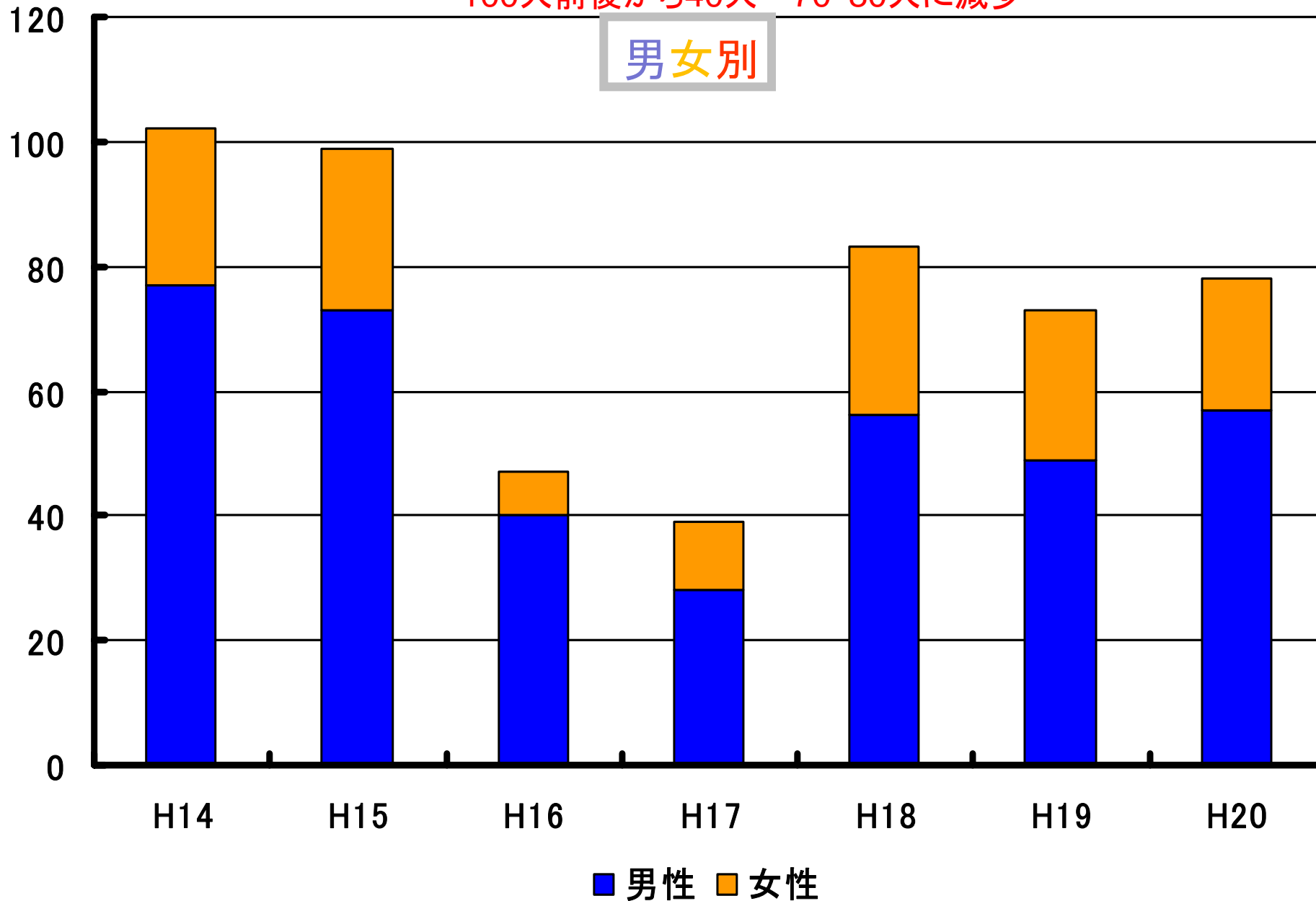


研修終了後に新潟大学病院に新規所属者(いわゆる入局者)の数

(名)

100人前後から40人~70・80人に減少

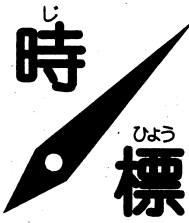
男女別



まとめ

- 深刻な医師不足状態の新潟県における地域医療維持には、医療機関のチーム連携が必須であり、大学病院がその中心となり、効果的な役割を果たす。
- 大学病院の若手医師、中堅医師の処遇改善をはじめ、地域医療の中心・最後の砦となる大学病院の機能の充実に資する施策が必要。
- 臨床研修制度は、専門（後期）研修を見据えて、学部教育における臨床実習との接続（卒前・卒後）に焦点を絞って検討すべき。

最近の医療現場における混乱と不安は深刻さを増している。小児科、産科の閉鎖、救急指定を返上する病院の続出、さらには病院の相次ぐ破綻(はたん)など、医師不足に起因する医療の危機を反映した現象が起きている。特に地域医療を担う地方の医療



現場では、医師のマンパワー不足の解決策に光明を見いだせずに、暗澹(あんたん)とされている。その原因が医師の絶対数不足とともに地域的偏在と診療科ごとの偏りにあることは明らかである。

医師養成では、インターン制度廃止から実に三十六年ぶりに卒後臨床研修制度の大改革が行われ、二〇〇四年四月から新しい臨床研修制度がスタートした。その基本理念は、プライマリーケアのため基本的な診療能力を幅広く修得するとともに、医師としての人格を育てることである。

しかし、「地方で研修医をどう確保していくのか、研修の内容と質の向上をどう確保していくか」の具体策がないまま、研修予定者の希望と受け入れる研修病院側の意思で決まるマッチング制度が導入され、研修医は自由に研修病院を選べるようになった。その結果、大都市圏以外では研修医が不足するという地域偏在が顕著になり、医療危機に拍車をかけているのである。

地方で深刻化する医師不足に対し、〇六年八月、政府関係省庁連絡会議は「新医師確

学生と地域医療の課題探る

保総合対策」を取りまとめ、人口当たりの医師数と面積当たりの医師数が少ない青森、岩手、秋田、山形、福島、新潟、山梨、長野、岐阜、三重の十県で〇八年度から最大十年間、一年当たり十人まで県内の大学の医学部定員を増やすという医師養成策を発表し



下条 文武

た。しかし、医師の養成には時間がかかるし、何により地域医療を担う意欲ある医師の育成が喫緊の課題であるといえる。

豪雪地帯や山間地、離島を抱える新潟県の医師不足は特に深刻である。このため、新潟大では地域医療を担う医師

の養成・医学教育への積極的な取り組みとして、〇五年度から「中越地震に学ぶ赤ひげチーム医療人の育成」という特色ある取り組みを行っている。その理念は、一人の力りスマ性ある献身的な赤ひげ医師に頼るのではなく、「システムとして地域医療を支える医師を養成する体制」を構築するものである。

具体的な三つの柱は①学部・学科を超えた学生による地域医療のフィールドワークの実践②卒後臨床研修での、地域医療機関と連携・共有したプログラムによる医療チームの訪問診療研修③すでに地域で医療を担っている医師への人的、物的およびシステムとしての支援である。

その核が新潟大と十三地域医療機関を専用回線で結んだ遠隔テレビ会議システムであ

る。大病院内の登録医師がテレビシステムにより地域の医師との双方の情報交換を密にし、しばしば直接地域に出掛けて地域医療をバックアップしている。すなわち「赤ひげチーム医療人」とは、大学病院を含め地域医療を担う医療人全体をチームととらえ、地域が抱える問題を大病院も共有し、学生や研修医が地域医療を経験し、考える機会とする取り組みである。地域での学生らのフィールドワークにも効果を上げている。

いずれにしても課題は、明日のわが国の医療を担う若い医学生への教育や研修医の指導を通して、彼らに地域医療への「夢・やりがい」をいかに示していくか。私たちは積極的にその役割を果たさなければならぬと思っている。

(新潟大学長)

げじょう・ふみたけさん

1943年葦崎市生まれ。甲府一高卒業後、新潟大医学部へ進学。98年12月に同大医学部教授。同大病院長、同大副学長を経て2008年2月より現職。